

第 34 回
ACEF スタディツアー
 Bangladesh 寺子屋訪問



2008 年 3 月 19 日 (水) ~ 27 日 (木)

第34回
ACEF バングラデシュスタディーツアー報告書

— 目次 —

- ツアースケジュール
- 参加メンバー紹介
- バングラデシュの概要
- サイクロンについて
- ACEFについて
- BDPについて
- ACEFとBDPのあゆみ
- BDPスタッフの紹介
- ツアー日記
- 現地での日本紹介
- シェアリングふりかえり
- ツアー参加感想文
- 参加者名簿

第34回 (2008 年春)
ACEF バングラデシュスタディーツアー日程

- 3月19日(水) 午後 成田発。香港で乗り継ぎ。ダッカへ。
- 3月20日(木) 午前 未明にプーバイル宿舎に到着。開会礼拝の後、オリエンテーション。
- 午後 ダッカ市内で買い物。
- 3月21日(金) 午前 南部のカティラ地区へ移動。
- 午後 村の家庭訪問。
- 3月22日(土) 午前 BDP スクール訪問。
- 午後 BDP スクール訪問。
- 3月23日(日) 午前 教会 イースター礼拝出席。
- 午後 校長先生のお宅訪問。
- 3月24日(月) 午前 シャチムリア校訪問。
- 午後 先生のお宅訪問。
- 3月25日(火) 午前 プーバイルへ移動。
- 午後 ダッカ市内で買い物。買出し。
- 3月26日(水) 午前 荷物整理。掃除。
- 午後 シェアリング。閉会礼拝。
- 3月27日(木) 午前 未明ダッカ発。香港で乗り継ぎ。
- 午後 成田空港着。解散。

☆Our Boss☆



中川 英明
Hideaki Nakagawa

いつもみんなを見守っている。
優しい中川さん ☆
知識が豊富で、英語もペラペラ 😊
みんなが安心して頼れる。
我らがボスです ♡

😊 Mrs. Smile ☆



井上 儀子
Noriko Inoue

のりこさんがいるだけで
みんなが笑顔真に 😊
バンガラデッシュと日本の
かけ橋です ♪
みんな大好きなのりこさん!! ♡



澤 みのり
Minori Sawa

素晴らしい感性の持ち主の
さわちゃん ☆ としてもまじめだけと、
としても愉快 😊!!
のりこさんとのコンゼは Nice でした ☆
ゆったりと時間を楽しむ人です ♪

☆ Natural
Womam ☆

第34回 スタディ

Cheerful Girl



どこに行っても、すぐ子供達と仲良くなってしまう人気者☆
小さい子大好き♡
やたらテンション高い女子校生です😊 アバートさん命名「セクセク」のセク♪

大沢 あんず
Anzu Osawa

Shiny Girl

優しくて、元気モツモツな
なおちゃん☆
まぶしい笑顔に目か
くらみます!! 子供に大人気♪
アバートさん命名「セクセク」
のセクです😊♪



葛西 菜穂子
Naoko Kasai



初めはマイboyだ、たけど、
どんどんベシガールboyに!!
BDPスタッフのアミユさんと
池で水浴びしたリ、2人バイクに乗たり、
兄弟のように仲良しでした😊♪
気になることは、言周ベ上げる石研究家
です☆

高木 駿
Shun Takagi

Peaceful Boy

ツアーメンバー紹介

バングラデシュの概要

バングラデシュ人民共和国=People's Republic of Bangladesh	
建国	1971 年
人口	1 億 4 千万人(世界 8 位)
面積	1 4 万 4000 k m ²
人口密度	982 人/km ²
公用語	ベンガル語
宗教	イスラム教 (90%), ヒンズー教(9%), 仏教(0.7%), キリスト教(0.3%)
通貨	タカ



気候	亜熱帯モンスーン気候。年 2 回、乾季と雨季を繰り返す乾季は 10 月中旬～ 3 月頃、 3 月下旬頃から気温が上昇し、夏を迎える。雨季は 6 月頃～ 10 月初旬。年間降雨量の 7 割がこの期間に降る。
地理	ベンガル湾に面し、インドとミャンマーに挟まれる。 国土の 9 割が海拔 9 m 以下の低地であり、水害が多い。世界最大のデルタ地帯といわれ、周囲をガンジス川 (パドマ川)、ブラフマプトラ川 (ジョムナ川)、メグナ川に囲まれる。
食文化	主食は米。水に恵まれた風土から、魚をよく食べる。🐟
経済	独立戦争後の混乱や自然災害から、経済不安が続くアジア最貧国の一つとも数えられる。GDP は年間 2,588 億ドル (世界 31 位)、国民一人当たり 1,900 ドル。近年のダッカの発展は目覚しいが、48% の人がなお、貧困線以下で暮らす。貧富の差も拡大しつつある。
教育	世界第 6 位の労働力人口 (15～65 歳)、多くの 15 歳以下人口を抱え、教育による人々のライフスタイルや、社会状況の改善が望まれる。

ー近年の動向

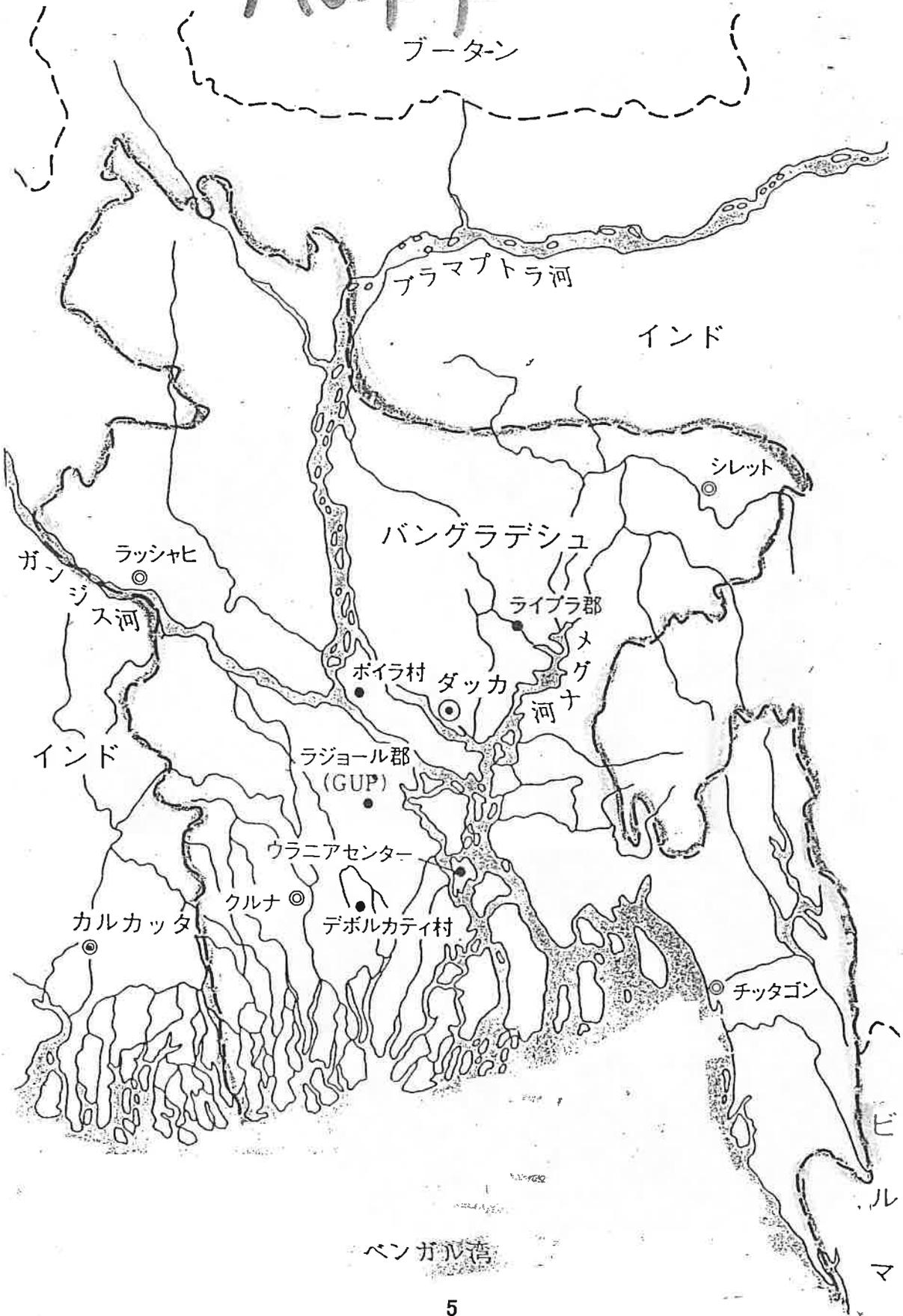
- ・女性に向けた低金利無担保ローンを行っていたグラミン銀行 (ムハマド・ユヌス総裁) がノーベル平和賞を受賞。さらなる女性たちの社会進出が期待される。
- ・多量降雨、低地の土地特性から、毎年水害が後を絶たない。最近では 2007 年 11 月、大型サイクロンによる被害を受けた。



↑ National flag 🇬🇧

Map 10

ブータン



ブラマプトラ河

インド

シレット

バングラデシュ

ラッシャヒ
ガンジス河

ライブラ郡

ボイラ村

ダッカ

メ
グ
河
ナ

インド

ラジョール郡
(GUP)

ウラニアセンター

カルカッタ

クルナ

デボルカティ村

チッタゴン

ベンガル湾

ビ
ル
マ



← Nakagawa-san

ルンギ

衣服

女性→皆、サリーやサロワ・カミューズを着ています。既婚女性はサリー、未婚女性はサロワ・カミューズを着ます。しかし、既婚女性の方でも働いている方は、サロワ・カミューズを着ている女性もいます。

今回のスタディーツアーで、女性陣はサロワ・カミューズを着ていましたが、BDPのカティラスタッフの、ピプルさんの奥さんに、サリーを着せてもらっていました。

男性→ワイシャツとズボンを着ている人が多かったです。家の中などでは、ルンギ（腰巻）を穿いたりもします。ルンギは通常は家の外では穿きませんが、農村地区の男性やリキシャを使って働いている男性も穿いています。

サロワ・カミューズ



Minoru

Naoko

サリ

Anzu



カミューズ

言葉

バングラデシュの言語はベンガル語ですが、英語を喋る人もたくさんいます。小学校くらいで英語を勉強するため、私たち日本人より喋れる子供たちも多いです。

～基礎ベンガル語～

- ・ アッサラーム・アライクム→イスラム教徒に対しての「こんにちは」の意
- ・ オアライクム・アッサラーム→アッサラーム・アライクムに対する返答
- ・ ノモシカール→イスラム教徒以外への「こんにちは」の意
- ・ アバルデカホベ→「また会いましょう」の意
- ・ ドンノバット→「ありがとう」の意
- ・ アプナール・ナム・キー→年上に対しての「あなたの名前は何ですか？」の意
- ・ トマル・ナム・キー→子供や親しい人に対しての「あなたの名前は何ですか？」の意
- ・ ボヨシュ・コト→子供に対しての「何歳？」の意
- ・ バーロ→「Good」の意
- ・ シュンドール→綺麗、美しいなどの意

食べ物

・カレー

毎日カレーですが、チキンやビーフ、野菜や鯉などの魚など、様々な種類のカレーが食べられるため、飽きません。また、私たちは農村地区で、作っていただいたカレーも食べたため、様々な家庭のカレーを食べました。

・ルティ

ナンと似たような無醗酵のパンで、朝食にいただきます。カレーと一緒に食べるだけでなく、バナナなどと一緒に頂いても、おいしいです。

・ダルスープ

ダルという豆から作られるスープです。様々なスパイスが入っていますが、辛くありません。ライスと一緒に食べてもよし、飲んでも良しの一品です。また、ダルスープを元にしたお菓子もあります。

・フルーツ

私たちの行ったときは、りんご、ぶどう、バナナ、スイカなどを頂きました。日本の味とはまた違った味だったりするので、新感覚を求めるのには最適。

・チャー

ベンガルティー。バングラデシュのお茶。紅茶に近いような味わいのため、すんなり飲めます。ミルクを入れて飲むもよし、ストレートで飲むもよし。個人的には、ストレートをおすすめします。

サイクロンについて

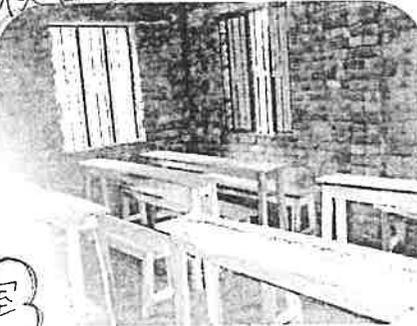
2007年11月15日夜、大型のサイクロン「シドル」が、バングラデシュ全土を襲いました。特に南部の地域では、最大瞬間風速 240km/h もの強風と大雨が、貧しい人々の生活を一瞬のうちにひっくり返してしまいました。

ジャッムリアBDPスクール

サイクロンで
全壊してしま
いました。



私達が訪問した時には、
レノガの新校舎に
建て直されて
いました☆



笑顔の
子供達😊

新しい教室

Nice
Smile♡



★サイクロンの来た日から、
半年が経ち、新しい校舎を
建て、子供達も笑顔です。
しかし、彼らの傷は決して
癒えていません。
実際、BDPスタッフのビグルさん
の息子さんは、サイクロンの夜
のことを思い出してしまい、

2月くらいまで自分の家で眠れなかったそうです。

ビグルさんの息子さん: 10才 みんなこうして笑っているけれど、

彼らに、傷があることも、しっかりとに留めておく
べきだと思ひましょ by あんず

アジアキリスト教教育基金(ACEF)とは

1971年に独立したバングラデシュは、アジアで最貧国といわれ、人々は絶対的貧困にあえいでいました。当時、同国における識字率は、約30%で。特に女子に対する教育は軽視されていました。農村など貧しい地域においては、女子は14～15歳で口減らしのために嫁にされ、それが世界一の人口密度かつ人口増加率の一因ともなっていました。

長い間、女医として地域医療に従事してきたDr.ミナ・マラカール女史は、保険、衛生教育そのた全ての地域活動の根底に「基礎初等教育」がなければならないことを痛感し、「全ての子供に読み書きを」を念頭に、1990年5月に、ダッカ市内南部のスラム地域において寺子屋運動を開始し、それを、「サンフラワー教育計画=Sunflower Education Project=S.E.P.」と名づけました。家庭が貧しく、中学校に進めない女子中学生に奨学金を与え、先生となってもらい、小学校入学前の子供を集めて「寺子屋幼稚園」を始めました。このならカール女子の呼びかけに応じて、アジアキリスト教教育基金(ACEF)は、バングラデシュの子供たちに「寺子屋を贈ろう」と1990年10月に発足しました。

ACEFとBDPの協力結果、2007年の時点では、生徒数は11928名、教師数は292名、学校数は73項で、寺子屋幼稚園、寺子屋娼婦学校だけでなく、小学校卒業生のための職業訓練校も開港し、バングラデシュの教育による更なる発展を目指しています。

ACEFでは2つの願いを掲げています。

1)バングラデシュに寺子屋を贈ること

学校に行けず、田や畑で働いたり、街で物売りをしている子供たちが、働きながら通える寺子屋を開き、一人でも多くの子供たちに教育の機会を与えたいと願っています。

2)アジアの諸問題に、積極的に取り組む青年を育成すること

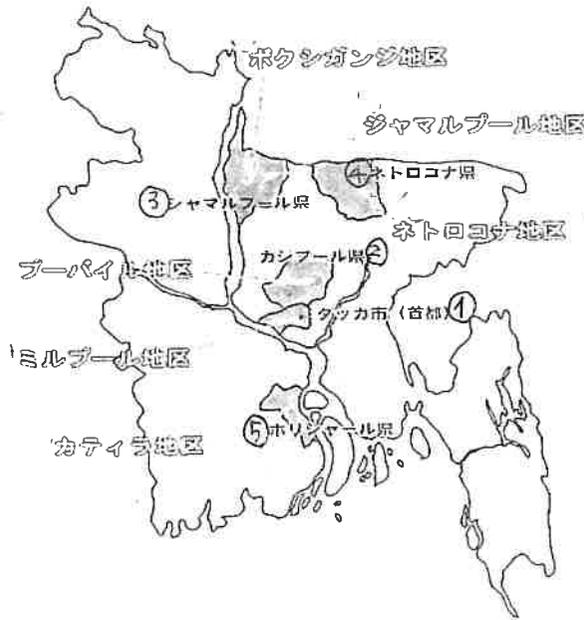
アジアの人々から多くのことを学びつつ、自らの生き方について一緒に考えていく中でさらに積極的な青年が育つことを願っています。

-BDPの活動-

「すべての子供に読み書きを」を念頭に、1990年5月、ダッカ市南部ジュライン(スラム地域)において始まった寺子屋運動は、みるみる拡大し、翌年にはダッカ郊外のガジプール県プーパイル地区、やがて、南部農村地帯のポリシャル県カティラ地区、北部農村のジャマルプール県ジャマルプール地区、ボクシガンジ地区、ネトロコナ県ネトロコナ地区にまで広がっていきました。

😊 BDPの活動地区 😊

- ① ダッカ市
ミルプール地区
- ② ガジプール県
プーパイル地区
- ③ ジャマルプール県
・ボクシガンジ地区
・ジャマルプール地区
- ④ ネトロコナ県
ネトロコナ地区
- ⑤ ポリシャル県
カティラ地区



☆寺子屋幼稚園、寺子屋小学校とともに、小学校卒業生のために、職業訓練学校も開校しています。実習科目は、機械科、電気科、木工科、溶接科、裁縫科、コンピューター科などです。

— ACEF と BDP のあゆみ —

	ACEF	BDP
	マラカール女史と船戸良隆氏の出会い	
1990年	10月28日、ACEF設立総会が開かれる。	5月、ダッカ郊外スラム地区にて、160名の寺子屋教育始まる。
1991年	8月、ACEFスタディツアーがスタート。	
1994年		マラカール女史来日。 プーパイルで小学校校舎建設が始まる。
1995年	10月、創立5周年を記念して「ベンガルダンスと音楽の夕べ」を開催。	12月、初めての卒業生164名がBDPスクールを卒業。
1997年	9月、「山梨ACEFの会」発足	
1998年		6月、初めてのレンガ造りの校舎が完成。 同月、創立者マラカール先生の辞任、 総責任者にアルバート氏が就任。
1999年		団体名がSEPからBDPに改名。 2月、ボクシガンジに寺子屋小学校できる。
2000年	10月、創立10周年を記念し、「井上ひさし講演会」を開催。 同月、「関西ACEFの会」発足。	BDP職業訓練学校も年々充実してきました。 溶接科、木工科、裁縫科に加え、機械科、電気科も生徒数が増加・・・。
2003年		1月、念願の女子コンピューター教室始まる。
2005年		BDP寺子屋卒業生がダッカ大学へ入学。
2006年	船戸先生の退任、 中川氏が事務局長に就任。	



90年度の
発足から、

会員数は約16倍に。
(74名→1,213名)

生徒数は約70倍に。
(163名→11,319名)！！

！！毎年2回実施されるスタディツアーは、これまでに25回を重ね、466名の参加者が
 Bangladesh での学びの時を与えられました。！！

BDP boss Albert Marcar photo →



ちよとどこのか →
俳優さんみたいに
しよう!? BDPは
イケてる男性揃いの
ここに写真は用意できま
せんでしたが、

サイキルさん、Pリさん、ソチョイさん(α) フォバシル
フルーワさん、オムさん、ダカスタツの皆さん。
お世話になりました☆

今回のSTでも
ファン増加中! →

ニキルさん ↓
↑

プライベートはいつも冗談を
言っています。BDPのボスは
あの人だよと、フルー
ワさん指さされ
私は何日が
彼がボスだと
知りませんでした。
by ちよ

**Dhonnobad for all
BDP members !!**

とっても good a warmな
ハートの持ち主☆



BDPのみなさんは、
子どもたち☆
大好き♡イ中良し。
こんな旦那さんが
いてくれたらな...
ついつい
思っています。
☺



ハモントさん 歌声が
とってもステキなジェントルな。
歌声だけでなく、おバテステキ
です。

エリッワさん



Nice driver
フォバシル →
カタラ、7時間の
ドライブもイロのそへ
アホハジさん
信頼のまなし。

ラバジさん
ものしり博士... 📖



フォバシル オフィスの ひびき。 ☺

歌の時間になると、
ひととき愉快的な

BDPのみなさん。

BDP最優秀！
とても今風な香りがします。
職業訓練学校担当

ラヨミルさん



♪70級の合唱は、
どこまでも続きます。

ダニエルさん

タイコさん

アキラさん

いつもフレンドリー
メンバーの気者。

人の名前を覚えるのが
少し苦手でも、
オッビグナク!
(no problem...)
カテラの責任者。



ビラオさん

奥さん

ビラオさんの
奥様は、
BDPスクールの

校長先生は、
とても、
芯の強そうな
女性でした。
女性の失生の
powerも重要!



とても
フレンドリー
な、
お嬢さん



Special thanks for
Kathira staffs !!

4日間の
滞在の間、
何から何まで、
本当にありがとう。

ビグダツさん



奥さんとの一途な
愛に、皆感動。





3月19日 1日目

いよいよ、バングラデシュに旅立つ日がやってきました。

自分は、2時集合なのに、10時には成田空港に居たため、4時間ほど暇でした。次からはもう少しゆっくり行動しようと思いました。

2時にみんな集合して、約1ヶ月ぶりでした。私は、機内に預ける荷物が無かったため、代わりに鉛筆の入ったケースを預けたわけですが、これが重い重い。リュックサックに似て荷物をまとめて、預ける荷物を無しにしていなかったらどうなっていたかを考えると、少し怖いです

荷物の受付を終えてからは少しの間自由時間だったため、私はドルと両替(私は50ドル両替しました)をして昼食としてうどんを食べた後、展望エリアで暫し時間を潰していました。

その後、ロビーに移動したら、そこにベンガル人の人たちが居ました。家族で東京にいたそうでした。子供も居て、笑顔がとても可愛らしかったです。暫しそこで、ベンガル人の一家とお話していると、搭乗の時間になりました。時期が時期のためか、日本人は少なかった印象があります。

4時20分発の飛行機に乗り、8時45分に香港着だったため、4時間以上の飛行機の中では、本を読んだり音楽を聴いたりしていたのですが、そのうち、折り紙の練習をしていました。みのりさんやあんずさんや菜緒さんは様々な折り紙を作っていましたが、私は鳥しか作っていませんでした。ペンギンやアヒル、つばめやカラスなどを作っていました。鳥を折るにも結構難しいものでした。全体的なバランスや鳥としての存在感を出すのは難しいことを実感しました。作った鳥が向こうの子供たちがわかるか考えることなしにひたすら作っていました。

香港についてからは、2時間ほど待ち時間があったため、私は本を読んで待っていました。香港に着いた時点で、日本語が通じない人たちばかりで、かなり緊張してました。言葉が通じない所に行ったときの、ある種の恐怖感を体験した感じです。

10時35分発の飛行機で、ダッカに向かいました。時差の関係で飛行機中の時間は、日本時間だと夜中だったため、みんな寝ていましたが、私はまた本を読みました(寝ると耳が痛くなると思ったので)。しかし、眠くなってくることには逆らえませんでした・・・案の定耳が痛くなりました。それはそれは、言葉に出来ないほどの激痛でかなり苦しみました。耳が元から悪いので、耳の痛み止めとかを飲んだんですけど、効かない効かない。着陸するまでこの痛みは続きました。

1時過ぎにはダッカに着き、入国手続きをしました。夜中にもかかわらず、空港の前はタクシーの運転手がたくさんいたため、驚きました。また、少し前に雨が降ったらしく、涼しかったです。私は、ワゴンの中でアルパートさんにいろいろ質問されました。バングラデシュで過ごす数日間の1日目はたくさんの緊張とドキドキの一日でした。



by しゅん

○ 3つがめ ○

フォーバールの
子供たち



言葉を通じたりけれど
デジタルカメラを持ってのを見て
たくさんの子どもたち
集まってきましたよ。
みんながわがわがした。



← 学校の先生

見た目怖そうだけど
とてもチャーミングな先生。
子供たちから慕われているように感じた。

ダッカにあるお店 →

午後から首都ダッカに
サロワカミューズを
買いに行きました。
いろいろな種類の
色や模様があって
選ぶのが大変でした。



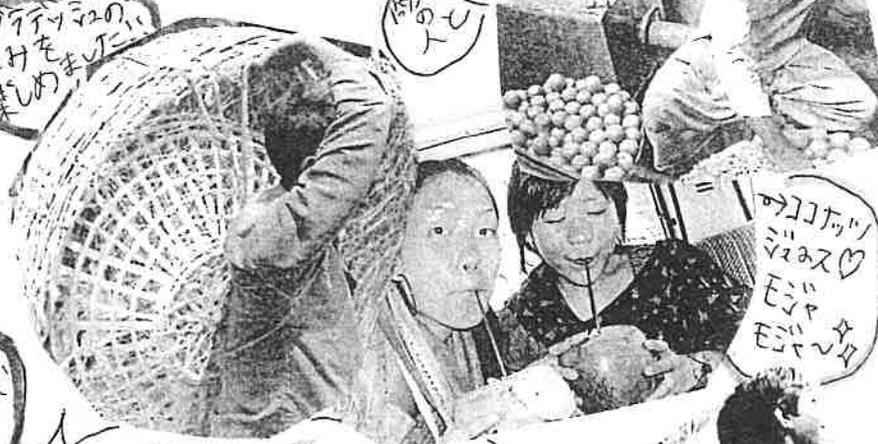
by ナオニ

3★21(Fri)3日目♡

フェリーに乗りこえ近うっ☆

両津加戸
ハシダテツミの、
町並みを歩いて
楽しめた

向人の人



→「おっ、
シニア♡
EJY
EJY♡

Good Morning ☀
昨日買ったサロワ・カミューズ
を着て♡女性陣4人多

この日は
アポイント→カテラ
～7時間の旅でした!!
うんすニキルさん-Veryトニバット!!
(トニバット)

♪の♡☆
Cute Smile
移動中も感動の瞬間。

お～!!
池で泳いでる!!

着いて早速
村の男の子達と
縄とびや
なわとびのサロワ事
は御清々的でした!!

Kathira 倒着

村の同年代の
女の子達と
仲良くなりました!
日本のギル!ホースも
教えた。セトラ
やりました♡

カカカ
肩車!!
ハシダ
ては
兄弟
をたたく
感じました!

密席を作って
すばらしい
ダンスをおどってくれました!
す、ごきげい
だ、だ!夕日に
照らされて
踊る彼等は
シュンドワール
でした!*

村の少年達と
変身対決!!
おっ、なかなか
やるなあ
かわいい♡



長旅おつかれ様でした!

by あんず

3★22(sat)4日目♡

みんなにニコニコ
うれいそうです♡



新しい
教室!

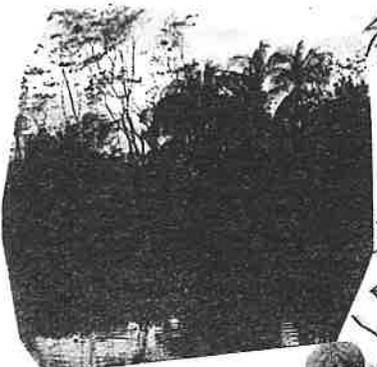
BDPスワールのみんな♡
素敵な歓迎でした!

新校舎開校!の瞬間♡
川さんがリボンを切ります。

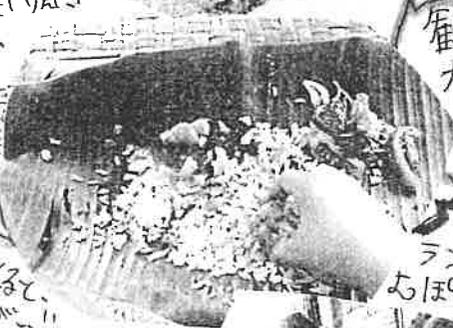
私達が船で出航する直前までお見送り
してくれました♡

本日2校目
なぜか
「しゅん」
コールで
盛り上がり
ました♡
「しゅん!しゅん!
しゅん!しゅん」
みんな拳を
握って!!

チーちゃん
先生



こんな景色
こんな大自然
こんなに気持ちいい風
見たことなかった
感じたことありません
でした!
←船から見た
景色



歓迎会の後は
大自然の中を
ひたすら散歩♡
たくさん歩きました



船がまた戻ると
ちまの子供達が...!!
なにより、待ってくれました♡
本当にこの子達の純粋さは
目撃するものはありません
感重かったです♡
ありがとう!!

散歩の後は
ランチタイム!ななんと
おぼろ特別なお酒に
使わない



バサの葉は
お皿に
していただきます!
のりこは
初体験
たしか♡



そして日暮りから
商店街へ行き
2着目のサブウェイ
を買いに行きました!
夜の商店街の
雰囲気もGood
でした♡

土也バナに
あるお皿から
口に運ぶのは
なかなか上手でございました♡

☆ みのりのEaster日記 ☆

08. 3. 23 (Sunday)

今日はイースター。



バンクラデッシュの教会で祝えるのか

楽しみです。

Time table

早朝	・ラジオ体操
午前中	・カティラオフィス近くの教会で、イースター礼拝に出席。 ・BDPスタッフ、ビブルさんの奥さんのお兄さん?のお宅を訪問。 ・イースターのおやつを食べる。 ・イーストバクダッにあるBDPスクールを訪問。サイクロン後復興した校舎を見学します。
昼食	・カレーを御馳走になります。校長先生の家で地鶏カレー。
午後	・帰ってお昼寝、自由時間。 ・夕方から夕拝、シェアリング。 ・今日も晩ごはんはカレーです。 …そして始まる、“うたの時間”。



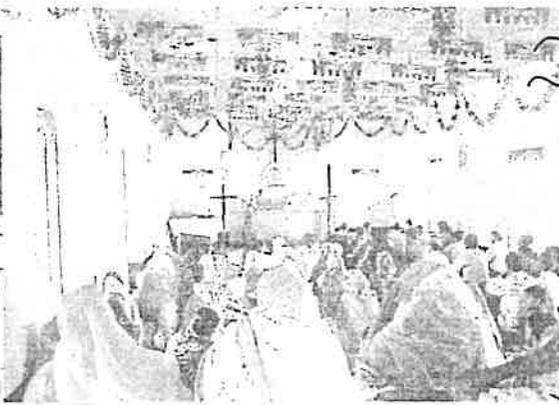
校舎も立派に再建されていました。

いつもカレー
いつもカレー
いつもカレー



おいしい。
moja.

これが「バンクラ」の church!



ものすごい
音量!!
歌で
讃美を
あらわします。

「教会学校へイテウ」の歌を歌って来ました。

のりこさんは
どこに
行っても、
スピーチを
頼まれます。ラウンドビル
牧師さんみたいでしょ。

バンクラの church は とても、
「きらびやか」。でもよく見ると、
クリスマス用の飾り!!
この飾りが好きなのが、片付ける
のを忘れているのが... はたしてはたして



とても
cute
① ビブルさんの
親戚の家の
お庭にて。

イースターのお祝いに、ヨーグルトを食べる
習慣があるそうです。
あま〜いみこの味がセミツキに。
まよ〜 “あの年のイースターは、バンクラにいたんだあ
って、毎年思い出すのでしょね。”



by みのり





Today
is...

☆ 駿のEaster日記 ☆

3月23日 5日目

この日も早朝から清々しく起きて、ラジオ体操を行い1日が始まりました。

この日はイースターの日だったため、朝食を取った後、歩いて教会まで行きました。教に入っ
てまず驚いた事は、男性と女性のエリアが分かれていることでした。日本じゃ考えられないこと
だったので、驚きました。私たちは全員で女性の方々のエリアにあるイスに座りました。前の方
で語っている男性がかなり熱く語っていた点も日本とは違いました。日本では、静かに語りま
すから、その点でも日本とバングラデシュの違いを感じました。ベンガル語だったため、何を言っ
ているのかわからなかったのですが、途中から話題が切り替わったらしく、「ジャパニ」という
単語が出てきたので、自分たちのことを言っているのだとわかりました。内容は、「日本人の中
でベンガル語を話せる方が居るので、お話してもらいましょう」という感じでした。そして、儀
子さんが前に出て、お話した後、私たちも歌を歌いました。賛美歌を聞きましたが、義塾の礼拝
のときよりも大きい声で歌っていました。

礼拝が終わった後、教会近くのピブルさんの実家のお邪魔して、お茶を飲みながら子供たちの
歌と踊りは見ました。ピブルさんの奥さんは、シャッチムリア地区で教師をしているため、居ま
せんでした。ピブルさんも向こうに住んでいるそうです。

午後は、イーストバグダツのBDPスクールに行きました。授業は無い日だったため、校舎だ
け見せていただき、校長先生の自宅で昼食を食べさせていただきました。様々なカレーが出る中、
地鶏のカレーが美味しくてたくさん食べてしまいました。この日がステディーツアーで一番食べた
日かもしれません。カレーを食べていると、犬がテーブルの下で戦う戦う。賑やかでした。昼食
を食べた後、イーストバグダツの方たちが、歌と踊りを披露してくれました。私達の方は、あん
ずさんと菜緒子さんが、スタディーツアー初のソーラン節を披露してくれました。

その後、カティラのBDP宿舎に戻り、劇の練習をしました。私は、ガラガラドン役で、ベ
ープサートを作りましたが、Tシャツに鬼のような絵が描かれているTシャツを持ってきてい
たので、私はそれを着て、生身でガラガラドン役になりました。夕食のあとは、ヘモントさん
たちの、歌を聞きました。向こうの人たちは歌が上手く、歌の内容と歌い方が良く合っていたた
め、感動しました。

そして、夕拝などを行い、5日目は終わりました。

後から聞いた話ですが、礼拝で前で熱く語っていた人は、神父(牧師)ではなく、司会の方だ
ったらしいです。神父(牧師)の方は、少ししか出ていなかったようです。また、司会の方は、
アルバートさんのおじさんだそうでした。

by しゅん



Easter!



6日目

in カティラ

＜ピロルさんの
奥さん体操＞

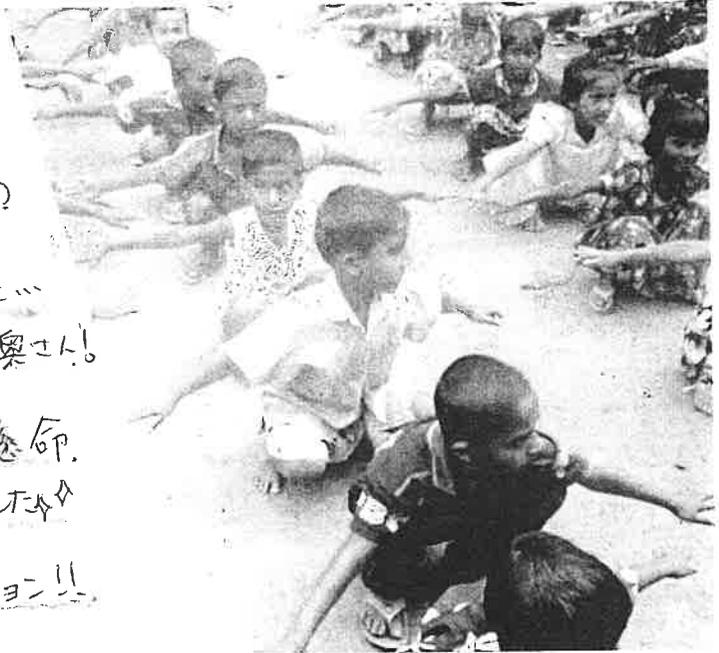
この学校オリヂナルの
体操!!

倉庫者はなんど...

ピロルさんの奥さん!

みんな
一生懸命
やっています☆

アテ〜ンション!!



↑
アリーを着せてくれ、メイクもしてくれました。
おまけにお化粧もしてくれました。
みんなピエロ状態でした... (笑)

by なお二

3★25(Tue)7日目♡ by あんず

見送りに
来てくれた
村の子供♡
ありがとう



カニエさん

ゼッパルさん



Thanks
for
Kathira
BDP Staff



アッシュさん



Good
Bye Kathira

ピグダシさん



この日はカティラ
出発の日々
スタディツアーの半分以上の
日々をカティラで過ごしました!

カティラBDPスタッフのダニエルさん、ゼッパルさん、ピグダシ、アッシュさん、
楽しくて、充実した日々をありがとうございました。帰りの車はみんな涙ほろほろ
でした!

トカシさん

エリックさん



Im home Dubai!

悲しいけど、ドバイにモ、
友達がたくさんいます。た
たいま! ドバイ! My friends

カニエさん

オモカ

また、7時間の移動重さを
経て。(ニキルさんドンパット!)
ドバイに到着。着いて、
少し休んでから、夕方から、
BDPスタッフと町へお買い物に
行きました。スタッフの方のおかげで、満足なおみやげを



3★26(wed)8日目 出発の日

この日は、向いの国の
子供達と、1日中
惜みなく
遊んでました☆



アミンナ姉弟

早朝、歯みがきを
しなから登場！笑
アミンナの可愛さは
たまたま知らず☆



おてび3人



遊んでました☆
アミンナ
ソーラ節
も踊り
ました！
また、夕
方には
アバートと
まじめの
ディスカッションを
しました。



アミラア



アミンナ

LVSE
縄とび
文打決



アバワ兄弟



彼はジントルで、
お家にも招待してくれ
ました。あ、たか、い
家族に囲まれる
アバワです☆

事務所を築く前に、
スタッフとリーダーメンバーで
車輪になって手をのたまき、
言葉美哥をたいたいしに。



しゅんちと
アミラア達
何見ての？

みんなで
ゲームTime~♪

アバワ兄弟
アバワ兄弟
アバワ兄弟



アバワ兄弟
の
おみやげ
アバワ兄弟



大好きバンガラデッシュ

次にバンガラに
来る時は、



さわやか
Boys



和達のご飯を作ってくれた
食堂の女性2人♡

このみんなに
会いに行こうな
気分
だろ？
友達と
再会
するの、
おはな



アバワちゃん
すっか！中、良し☆



日本紹介

- 大きな栗の木の下で
- カラガラドン
- 僕らはみんな生きている
- ソーラン節

歌やダンス・手話・劇
 みんなで練習して、子どもたちの
 前で発表しました。
 子どもたちは私たちのマネをしたり
 楽しませてくれたよ
 特にカラガラドンは大好評で
 とてもうれしかったです！！

僕らはみんな
 生きている

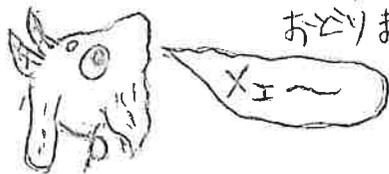
歌いながらの手話は
 とても大変だったの



大きな栗の木の下で
 日本語とベンガル語
 2か国語で歌いました。

ソーラン節

のリニさん、さあちゃん、しゅん君の
 歌に合わせて、あはれとなおニが
 ソーラン節を
 おどりました。



Sharing ふりかえり ～学びの旅の思い出

「このスタディツアーは、友情と学びの旅だ」とアルバートさんが言いました。そう、一人の旅とは違った長所が、このSTにはあります。一人で見聞きしきれないこと、体験しきれないことを仲間と共有し、深めていけるのです。

今回は少人数のチームだったこともあり、一人ひとりがゆっくり、自分の言葉で話せる良さもありました。一週間の間にどのようなことを感じ、話し合ったか、少し振り返ってみましょう。

3月●日 ～この旅の意味

開会礼拝で儀子さんが「今回の旅行の代金は、バングラデシュ都市部の労働者の2年分の賃金、農村部の10年分の賃金」だと教えてくれました。えっ、そんなに!?その事実に驚き、またこの一週間をどう過ごすか、自分にとってこの旅が持つ意味とは?、それぞれが改めて、考えさせられました。

3月△日 ～日本での生活

みんなが今、日本で過ごしている生活について話しました。この間まで会ったことも無かったのに、バングラでは家族のような間柄。不思議ですね。

共通の話題に上がったのは、生活の中で他人の目を気にしたり、周囲に自分を合わせている部分があるということ。それぞれ置かれた環境の中で、周囲に合わせる必要も勿論あります。けれど、この国に来て自然の大らかさや人々を見てみると、何かおかしいな、と感じると話し合いました。海外に来ることで、より客観的に自分の元いた場所を観察できる。大切なことです。

3月×日 ～闇の中で

カティラで停電は日常茶飯。アラまた停電、という晩でした。「闇」が持つ意味について話し合っていて、じゃあ懐中電灯を消してみよう、となったのです。するとどうでしょう、色々な音が聞こえてきました。風の音、虫の声、遠くから聞こえる笛の音色。

私たちは日ごろ日本で、視覚から入ってくる分りやすい情報に頼っていること、また、全てを明るく照らし出す都会で、小さくささやかな光を、きっと見逃しているかもね、と話しました。



3月○日～アルバートさん語る

シェアリングにアルバートさんが参加してくれました。ボートに乗った日です。美しい夕日を見ながら、アルバートさんは自分がバングラデシュの子ども達のために何ができる

か、改めて考えたそうです。

「自分に何が貢献できるか (=what I deliver)」、「子ども達に与えられている選択肢にどういうものがあるか」考えてみて下さい。私たちにメッセージを残してください。

3月▲日～都市と農村、得たものと失ったもの

カティラからプーバイルへ帰ってきた日。野原で星空を眺めながら、シェアリング（なんてステキな…でも、発電機の音がうるさくて外に出ただけなのです）。空には無数の星がちりばめられ、目が慣れてくるほど見える星の数が増えていきます。

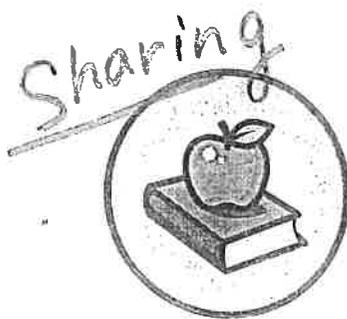
今日は農村部から大都会ダッカへ、と急激な景色の変化を見てきました。一国の中で、これだけ差があることに驚きました。その道中、私たちが都会化し、便利になったことで得たものと失ったものが、具体的に少し見えた気がしました。電気設備が整った代わりに、停電しても、歌って楽しく過ごす時を失った。クーラー付きの立派なビルの代わりに、暑くてもお互いをうちわで扇ぎ合う笑顔を失った。どちらがいいと一概には言えません。でも、不便さも残るカティラで過ごしたこの日々は、本当に楽しかったね、と話しました。

3月■日 ～神様からの贈り物

夕拝で菜緒子ちゃんが、タレント=才能という言葉は、聖書に出てくるタラント（=お金の単位）から派生していると説明してくれました。私たち一人ひとり、神様から違った預かり物を授かっているのだと、そしてメンバーみんなの長所について話しました。なんていいチーム！。

●月×日 ラップアップディスカッション

この旅ももう終わり。まとめのディスカッションをしました。チームのみんなのポジティブな態度がとても好印象だったこと、各自、この旅に参加して本当に良かったと思っていること、など感想を述べ合いました。ほとんどみんな、また来たい！そして、もっと英語を勉強して来たいと感想を持っていました。もっとコミュニケーションし、バングラデシュをもっともっと知り、近づきたいと感じたのでしょう。



カティラの風景

中川英明

BDP の活動地域の中で、ぼくがまだ行ったことのなかった唯一の場所カティラ。昨年 11 月半ばのサイクロン「シドル」で被害を受けてしまったカティラ地区の BDP スクールの子どもたちや先生方に会いに行くことができたのは、修理や建て替えがすんだ校舎で授業が再開されて間もないころだった。

今回のバングラデシュ訪問で強く印象に残ったことのひとつは、カティラの川や田畑の向こうに沈んでゆく夕陽の大きさとあざやかな色合いだった。普段暮らしている東京では、日が落ちるころには街中に行きやすい、せかせかと忙しくあれやこれやしているので、夕陽が沈んでいくのを眺めることができる機会など滅多にないけれど、スタディツアーの間には、宿舎の庭に座って木々の後ろに沈んでいく夕陽を眺めたり、ボートの甲板に座って夕陽を眺めたりすることができた。そんな風に過ごしながらい、日が沈んでだんだんとあたりが暗くなると、今日もまた、一日が終わり夜が始まる、という当たり前のことが、なんだかとても特別なことのように感じられる。

今回のスタディツアーでは、夕方沈んでいく夕陽を眺めながら、あるいは夜に蠟燭の光を眺めながら、バングラデシュのこと、日本のこと、聖書のこと、学校のこと、考えていることや感じたこと、などなど、いろいろな話をすることができた。参加者が少なかつたこともあり、一人ひとりとの交わりの密度がとても濃いものになったと思う。多勢で過ごすスタディツアーにも、シェアリングの豊かさなど、魅力が沢山あるけれど、少人数で出かけるスタディツアーにも、大きなツアーにはない独特の魅力がある。そして今回の参加者たちは、少人数のツアーであることの利点を生かした参加の仕方をしてくれたばかりではなく、その利点を大きくすることにも貢献してくれた。スタディツアーは、毎回毎回違うけれど、今回も本当に素晴らしいスタディツアーにすることができた。みんな、どうもありがとう。

わたしのかいた「ABC」は
あっていますか？



すいか割りならぬ
ココナツ割り



子どもたちの前で
「さんびきのやぎのがらがらどん」を熟演

泣いた！笑った！一週間

井上儀子

「バングラデシュの人口の48%の人が貧困ラインの下にいます。貧困ラインとは何かみなさんご存知ですか？」初日のオリエンテーションでBDP責任者のアルバートさんは私たちにこう問いかけられました。メンバーの一人がこう答えました。「インカムベースとカロリーベースがあると思いますが…」アルバートさんは目を丸くして嬉しそうな表情を見せ、「とてもよいポイントですね。もう少し詳しく説明してください。」と促しましたが、そのメンバーは恥かしがって口をもごもごさせてしまいました。

貧困ラインとは、人間らしい最低限の生活を営みうる所得水準で、世界銀行の定義では、一日ドル未満の所得層のことで、またWHO(世界保健機関)の定義では、一人当たり一日に最低限必要なエネルギー量 2,100kcal を摂取できない貧困層を指しています。

この後、私たちのシェアリングでは、なぜかこのインカムベースとカロリーベースという言葉がキーワードのようにずっと心に残りました。

数日後、何気ない会話の中でアルバートさんがこんな話をしてくださいました。バングラデシュの北部に行ったとき、初対面の人からこんな質問をされたそうです。「あなたは何をしている人ですか？ 稼ぎはどのくらいですか？」これがその人を知る手取り早い質問だそうです。ところが、バングラデシュの南部に行くと、初対面の人への質問はこう変わるそうです。「あなたは何をしている人ですか？ 食事をどのくらい食べますか？」これにすかさず、先のメンバーが応えました。「インカムベースとカロリーベースですね。」そのタイミングの良さに一同大笑い。

そしてシェアリング時、「人は、どれだけ年齢を重ねたかではなく、どれだけ友を得たかが大切です。」とのアルバートさんの言葉にメンバーは、初対面の人への質問に、もう一つ加えましようと言いました。「あなたは何をしている人ですか？ あなたは何人の友達がいいますか？」インカムベースとカロリーベースで人を量るのではなく、フレンドベースという新しい視点が加えられました。これは単なるウイットに留まらず、とても良いポイントをついていると、大笑いしながらも感心させられました。

この時、思い出した言葉があります。「人間が死に臨んで自分の人生を振り返ったとき、生きてきて幸せだったと思わせるものは何かというと、財産でも名誉でもなく、感情の総量だと思う。こんなに笑ったり泣いたりした、と言える生涯こそ、誇るに足る充実した人生だろう。」(出典不明)というものです。

人目をはばからず大泣きしたり、大口をあけて大笑いするのは、日本人の美德に反するみっともないこと、と昔の人に叱られそうですが、この一週間私たちは本当によく笑いました。ちょっとしたことで笑いが止まらなくなり、お腹を抱えて、お腹の皮がよじれそうになるほど笑い転げました。おかげで？ 誰一人病気になる人はなく、みんな元気に健康に過ごせたことは何よりだと思っています。メンバーの一人一人に感謝しています。ありがとう。

付記:

私は今回、人前ではよく笑いましたが、人知れずよく泣きました。

辛かったことその1.

1ヶ月少し前に亡くなられたBDPスタッフのスティファンさんとは、1年半前のスタディーツアーと一緒にカティラで過ごしました。教会で、学校への行き帰りの道で、食卓で、池の周りで、宿舎で、どこにいてもスティファンさんの思い出がよみがえり、何度も涙があふれてきました。なぜあんなに素敵な方を、神さまは急いで天国に呼ばれたのでしょうか？ 神さまのなさることにはわからないことが多すぎます。

辛かったことその2.

BDPスタッフのお父様の死を聞かされました。11月16日、サイクロンの翌日の朝、突然の心臓発作であったという間だったそうです。そして、以前BDPスタッフであった方の息子さんも、気分が悪いと横になったと同時に咳き込み、いったん起き上がったところ、そのまま倒れて逝ってしまったというのです。何とあっけないことなのでしょう。私の息子と同じくらいの年齢です。胸が押しつぶされる思いです。

辛かったことその3.

プーバイルからダッカに向かう途中、線路の踏切をまたぐ高架道路工事が行われていますが、その橋げたの下にうずくまる小さな少女を見ました。ひざを立てて座り顔は下を向いたままです。ダッカでの買い物の帰り、同じ道を通り、同じ場所でその少女は同じ姿勢のままにいました。翌日カティラに向かう途中、その少女はその姿勢のまま前につんのめった状態で倒れ、下半身をあらわにしたまま逝ってしまったようでした。ダッカ空港に向かう途中も気になって窓の外を見ながら、そのことをBDPスタッフに話すと、まだまだそのような無残な死に方をする人々は日常茶飯事だと答えられました。ダッカの街はどんどんビルが建ち、車が増え、大都会化していくその発展の陰で、貧しい人々は貧しいままでどんどん取り残されているような気がします。

辛かったことその4.

今回はとてもゆったりとした時間をもて、プーバイルの地でも近所の子どもたちとたっぷり遊ぶ時間がありました。手遊び歌を歌ったり、身体を抱えて飛行機ぐるぐる回しをしたり、ボール遊びをしたり、高校生たちは若さゆえにもっともっとたくさん遊びを次から次へとしていました。しばらく遊んだ後、一人の女の子が私の手をとり離れた所にひっぱっていきました。友だちには「あんたはあっちへ行って。」とよせつけず私と二人になりたがりました。こんなときはいつも物をねだられます。折り紙をちょうだい、とかボールをちょうだいといった具合です。ところがその女の子の口から出た言葉は「お水をちょうだい。」だったのです。私は唖然としました。家には好きなときに飲む水がないのでしょうか。そのときは村の子どもがたくさん集まって一緒に遊んでいたのです。その子だけ宿舎に入れて水をあげるわけにはいかず、さよならをしてしまいました。

物をあげるのとはよくないという頭から、警戒しすぎてしまったのでしょうか？ 何と私の頭と心は固いのでしょうか。お水くらい飲ませてあげればよかったと、今になって心が痛むのです。

バングラデシュの川岸で

澤 みのり

今朝、バングラで買ったサロワカミューズを手洗いしていると、たらいの中の水が、鮮やかな藍色やピンク色、きれいな色に染まりました。期待に胸を膨らませ、まっさらな気持ちで成田を飛び立ったのが、ずっと前のことに感じます。

ゆたかに広がる緑の国土、眩しい光、ハイビスカスの花。目を閉じれば、今でも浮かんでくるようです。

私にはもともと、「貧しい国」、「困っている国」に行くという意識はあまりなく、自分の住んでいる環境以外の世界を知り、元気をもらいたいと願って応募した旅でした。愉快的ツアーメンバーや、BDPの方々に支えられ、信じられないくらい楽しい、充実した一週間を過ごすことができました。

毎日、数えきれない子どもの笑顔と出会いましたが、その中でも、印象に残っていることを書きたいと思います。

今回私たちが訪問した農村、Kathira 地区での出来事です。

BDP のスタッフが、夕方、私たちをボートに乗せるプランを用意してくれました。ある農村を訪問した後、私たちは川岸まで歩き、そこからボートに乗りました。村の子どもたちは、手をつないで乗り場まで送ってくれ、ボートが川岸から離れても、ずっと手を振って見送ってくれました。何人かの子は、川沿いを走って追いかけてきました。私も、笑って手を振りました。

とても、美しい夕日でした。心地よい風を受けて、ボートは進みます。その時、私の頭に、疑問が浮かびました。私は今、日本から旅行に来て、ここで、クルージングを楽しんでいる。あの子たちは、ここで毎日生活していて、でもきっと、ボートに乗ることなんて滅多にないにちがいない。

私と、あの子たちの、何が違うんだろう。

穏やかな水面を進むボートの上で、感覚的な疑問が、次から次に浮かんできました。まんまるな太陽が、バングラデシュの空を染めながら、今にも沈もうとしていました。

「夕日に何を願いましたの？」

隣に座っていたアルバートさんが、私に聞きました。

「えっ。アルバートさんが、タバコを止められるように、ですよ(笑)。」

私は笑って答えました。けれど私たちはまた、黙ってしまいました。

その晩、シェアリングに参加したアルバートさんは、こんな話を切り出しました。
「夕日を見ながら、考えたことがある。ボートに乗ったあなた達を見送る子どもたちの姿は、とても美しく、心温まる、けれど同時に、悲しい光景だと思った。

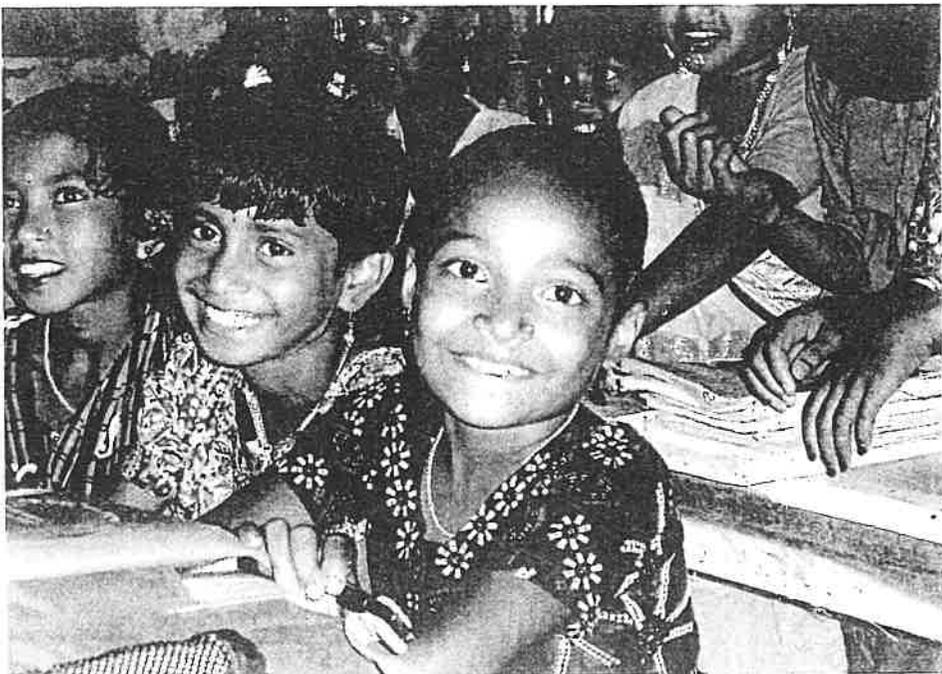
彼らはいつか、考えるだろう。この人たちと、自分の違いは何だろう、と。」
黙って座っていた、夕方の時間を思い出しました。

子どもたちは、持っていないからこそ、持ち続けられるものがある、と思います。それをこの国で実感しました。私たちが失いつつある、人間にとって宝物のような何かです。守っていかなくては、と思いました。

しかしながら、そうは言っても、バングラデシュが現状のままではいいとは思いません。ある小学校で、子どもたちが「勉強すれば、世の中にこわいものなんて何にもないよ」と、元気に歌ってくれました。将来彼らが悲しい顔をする機会を、少しでも減らさなければなりません。彼らが手にする“選択肢”の数を増やすこと、自分にどんな貢献ができるか考えること、それをBDPの方、バングラの人、そして自分に、約束しました。

今の私には、すぐにあの地に飛んで行って働くことも、莫大な寄付もできません。けれど、ことばで、自分の見たもの感じたことを他人に伝えること、バングラデシュでもらったぬくもりの温度を、ずっと心の中で保つこと、それだけは、続けていきたいと思うのです。

最後に、今回4人という少ないメンバーを旅に連れて行ってくれた ACEF の方、また支えて下さった多くの方々に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



大好きな国

玉川聖学院高等部 大沢あんず

バングラデシュでのあの1週間は、今までの私の人生で、最も素晴らしい経験のひとつとなりました。

正直、バングラデシュに行く前、私は不安が大きかったです。もともと国際問題に興味があり、貢献活動にも参加したいと思っていました。だから将来は国際機関に入って協力したいと思っていたけれど、貧しい国や発展途上国へ行くことは「危険だ」という偏見があって少し抵抗がありました。しかし一歩踏み出してみると、そこには人々の生活があって、子供達のかわいい笑顔があって、家族や兄弟の優しい絆があって、感動するような自然がたくさんあって、、、それまでであった偏見はふっとびました。実際に行って自分で感動や衝撃を体感して、現地の人達と接することは大切なんだと実感しました。日本から支援することも意味のあることだし大事だけれど、現地に行ってみないと、感じることの出来ないこともあると思います。

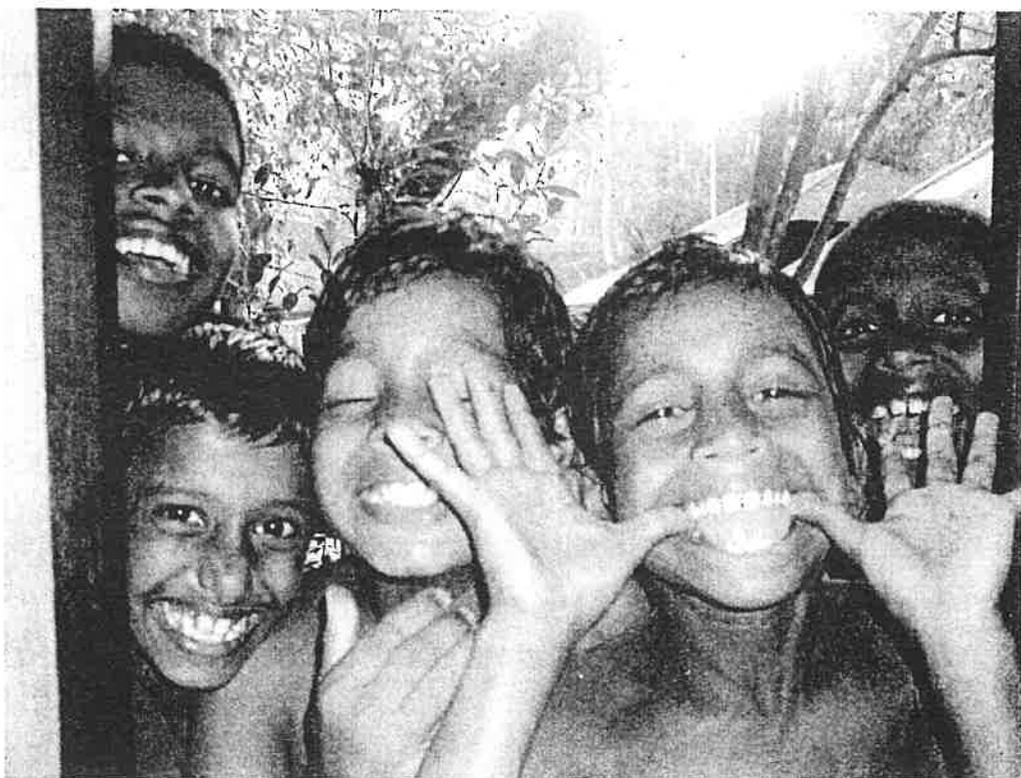
プーパイルから、ダッカに移動する道の途中で10才くらいの子供がうずくまっていた。微妙にしか動いていなかったけど、まだ生きていることは分かりました。しかし、次の日、移動するときまた同じ道を通ると、その子は前日の体勢が崩れて倒れていました。「ああ、もうこの子は死んじゃったんだ…。」私は心の中で泣きました。こうしてバングラデシュに来ているのに、何もしてあげられない。私は自分に無力さを感じました。だけれど、この無力さも現地に行かなければ感じられなかったかもしれません。現地に行かず、日本から相手の顔も見ずに支援していたら、自己満足で終わっていたかもしれません。あの子の死を直接目撃したことは、私に衝撃を与えました。けれど、私はそれによって将来への決心が固くなりました。その決心が、あの子みたいな子供達を救えたら良いな…と思っています。

また、行く前は、バングラデシュの人達に元気を与えてあげるつもりでいまし

たが、向こうの人達のパワーに圧倒されて、逆に元気をもらってしまいました。経済的にはバングラデシュのほうが下でも、家族や友達に対する愛のある心、人を精一杯歓迎する純粋な心、自然や神様からの恵みに対する感謝の心は、日本より遥かに豊かでした。心が豊かだからあんな生き生きとしたパワーがあるのかな、と思いました。

BDP スタッフの方々と過ごした時間、子供達や村の人達の本当にまぶしい笑顔、心からの歓迎、子供達と手をつないで歩きながら歌ったり、走り回った時間、バングラデシュで過ごした日々はとても温かいものでした。今でも子供達の「あんじゅー——う！」という声が耳に残っています。

早くバングラデシュに戻りたいです。



人生の出発点

東奥義塾高校2年 高木駿

バングラデシュは私にとって初めての国でした。今回のSTは私にとって、一生忘れることの出来ないでしょう。私は小学生の頃から、水について勉強していました。もちろん、世界の水事情についても勉強していたため、以前から直接、水滋養の良くない国に行ってみたく思っていた私には、今回のSTは有意義なものでした。

水事情については、日本では蛇口から出てきた水を私たちは飲んでますが、バングラデシュでは衛生面を考えると、加熱してから飲んでました。日本では、ごく一部の人がやりますがやらなくても別に問題は無い。しかし、向こうでは加熱した方が良いという点で、日本との水事情の差が私にもわかりました。水事情ではないが、水の硬度でも差があって。バングラデシュの水は日本より硬く、最初は口に合わないような気がしましたが、飲んでるうちに慣れていくことが、嬉しかったです。

バングラデシュで、BDP代表のアルバートさんが私たちに言った言葉を、私は自宅に帰ってからも考えました。私たちには、日々たくさん選択肢が与えられます。私が今回説教した内容(マタイによる福音書25~30)で、「思い悩むな」とあります。この言葉は、バングラデシュの人たちに日々与えられている選択肢に当てはまるのではないのでしょうか？例えば、「何を食べようか？」ということについて言えば、日本では、「今日は和食にしようかな？それとも、洋食にしようかな？」などのように間違った認識を与えています。しかし、本当の意味は「今日は晩御飯を食べられるだろうか？明日の晩御飯を買うお金はあるだろうか？」のように、その日その日生きていく選択肢になるわけであり、バングラデシュの人たちが日々考えている選択肢になるのではないだろうか？この言葉はの意味を私は、「日々の糧は与えられるから、思い悩むな」という内容だと言われたことがあります。私はバングラデシュに行ってから、疑問が多く生まれました。なぜかという、日々の糧を与えられない人たちも出てくるわけです。この時点でこの言葉には矛盾が生じると思う。そのような人たちに、「思い悩むな」と言っても、私は信じてもらえないと思う。そのような現状を変えていくことも、私たちに与えられた使命なのだと、私は思います。私は、今後、自分に与えられた選選択肢について、真面目に、真剣に考え、どのようなときでも意識的に、大切な方の選選択肢を選べる人間になりたいと思います。

タイトルに、「人生の出発点」と書きましたが、その理由なのですが、私は去年、約5ヶ月ほど授業を受けていませんでした。精神的な面で、授業に出られず、図書室でひたすら本を読んだりしていました。そんな私を救ってくれたのが、学校の先生方で、塾長先生にも助けていただきました。私はこのときから、洗礼を受けようかなと思っていたのですが、今回のSTで受ける決意が出来ました。また、将来の夢が増えました。以前は、心理学を勉強して、スクールカウンセラーになるとしか考えてみませんでしたが、今回のSTを経験して、中学のときから捨てていた英語を真面目に勉強するという決意が生まれました。そして、「海外で発展途上国で働いてみたい。キリスト教の教を教えたい」という考えが生まれました。そのことから、大学の学科は、心理学・キリスト教学科・英語科の3つという新たな選択肢が私に出来たわけですが、私はこれから大切なものを選ばなければならないので、じっくり考えたいと思います。

「写真は真であり、偽である。本当の姿を見たければ自分の目で確かめるしかない。」

写真はそのものの姿を映し出す点で、真ではあるが所詮写真。目で直接見た者にとっては偽でしかないと私は思う。本当の真を見たければ、直接自分で見るしかない。このことを私は友人達に言いたいと思います。そして、数年後でも良いから、友人もバングラデシュに行ってくれれば私は嬉しいです。

私は、何年後になるかはわかりませんが、私はバングラデシュに再び行きたいと思
います。そして、子供たちや、BDPのスタッフに再び会いたいと思います



カティラにて、BDPスタッフのアシシュさんと

バングラデシュ

弘前高校 葛西菜緒子

まずはじめに、参加者4人という少ない人数ながらも、バングラデシュに行かせて頂いたことに本当に感謝します。

今回、このスタディーツアーでの旅が私にとって初めての海外でした。正直なところ、私は不安でいっぱいでした。でも向こうの人達や仲間たちの優しさが、その不安を取り除いてくれました。

バングラデシュにいた、短いようで長い…長いようで短い1週間は、16年間で1番濃い7日間となりました。目に入ってくる全てのことが初めてで、毎日頭がパンク状態で大変でした。しかし、日本では絶対味わえないこの経験に喜びも感じていました。私は今でもバングラデシュで見たこと、感じたことを…まるで昨日のことのよう、鮮明に思い出すことができます。そしてその度に、私は恵まれているのだと実感します。

私を含め、大部分の日本人は普段「死」というのを考えるだろうか・・・いや、考えないだろう。でも、この国には今まさに「死」と隣り合わせにある人達がたくさんいます。自分の意思と関係なく。バングラデシュとはそのような人達がたくさんいます。でもその分、「今」を生きている自分を大切にしよう、という想いが強いのだと思います。そんな彼らをうらやましいと思います。

日本に帰ってきてうれしいことがありました。それは、学校の友達がバングラデシュに興味をもってくれた、ということです。帰ってきた私に、「どうだった?」と聞いてきたり、「私も行きたい!」と言ってくれたり、中には「治安すごい悪いんでしょ?」と尋ねてくる友

達もいました。これらはみんなただの興味本位でしかないかもしれません。でも私は、この国について知るための良い機会だと思います。スタディーツアーで体感したこと、学んだことを少しでも多くみんなに伝えられることができればなあと思います。

たった1週間という短い期間ではあるけれども、きっと一生忘れられない1週間になったと思います。BDPのスタッフの方々、バングラデシュで出会ったみんな、そして共に過ごしたメンバーに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！！



私の黄金のベンガル

R. タゴール (1861~1941)

私の 黄金のベンガルよ

私は、あなたを 愛しています。

あなたの空、あなたの風は

私の 胸の中にある笛を、いつも 響かせてくれます。

ああ、お母さん、早春の あなたのマンゴーの林に満ちる匂いに、

私は すっかり酔いしれてしまいます。

ああ、私は 死にたいほどに 幸せです。

お母さん、晩秋の、あなたの一面に実った稲田に、

私は あなたの蜜のような 微笑を見つけました。

その輝く光と 深い影とで 織りなされた

愛情と慈しみの衣の裾を、

あなたは、バニヤン樹の根元や、川の岸边から岸边へと、

やさしくひろげてくれました。

お母さん、あなたの語り声は

私の耳に 甘露のように響きます。

私は 死にたいほどに 幸せです。

お母さん、あなたのお顔が 悲しみに曇れば、

ああ、私の目にも涙が溢れるでしょう。



第34回(2008春)ACEF スタディーツアー参加者名簿

中川 英明	NAKAGAWA, Hideaki	男	ACEF 事務局長	国際基督教大学教会
井上 儀子	INOUE, Noriko	女	ACEF 事務局	浦和東教会

大沢 あんず	OSAWA, Anzu	女	玉川聖学院高等部2年	西麻布教会 高輪教会
葛西 菜緒子	KASAI, Naoko	女	県立弘前高校1年	
澤 みのり	SAWA, Minori	女	福岡大学商学部4年	福岡城南教会
高木 駿	TAKAGI Shun	男	東奥義塾高校1年	





Bangladesh に寺子屋を贈ろう

教育はすべての協力の基です。会員としてご協力ください。



個人会員	年額1口	5,000円
団体会員	年額1口	50,000円
学生会員	年額1口	2,000円
一時寄付	随時	金額自由
郵便振替	00100-0-185540	

特定非営利活動法人アジアキリスト教教育基金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-26

TEL. & FAX. 03-3208-1925

E-mail: acef@acef.or.jp

<http://www.acef.or.jp>